

2014年5月30日

「不安障害」から「不安症」への病名変更につきまして

日本不安症学会（旧日本不安障害学会）では、日本精神神経学会・精神科用語検討委員会からの依頼を受け、病名検討ワーキング・グループを組織し、DSM-5のドラフトから、不安に関連したカテゴリーの翻訳病名を作成いたしました。

ご存知のように、厚生労働省は、地域医療の基本方針となる医療計画に盛り込むべき疾病として指定してきたがん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の四大疾病に、新たに精神疾患を加えて「五大疾病」とする方針を決め、多くの都道府県で2013年度以降の医療計画に反映される予定です。

精神疾患に関しては、「統合失調症」や「認知症」のように、**common diseases**として、人口に膾炙するような、馴染みやすい新病名への変更が行われてきております。うつ病も、「大うつ病性障害」という病名ではなく、「うつ病」という言葉で、社会に広く認知されております。患者中心の医療が行われる中、わかりやすく、誤解や不快感を減らす病名が必要とされておりました。

そこで、DSM-5への変更を機に、従来の「不安障害」という旧病名を、「不安症」という新名称に変更いたしました。従来診断名である、「不安神経症」から、「神経」をとって、「不安症」となって短縮されているので、一般に馴染みやすいと考えます。ただし、日本精神神経学会での移行期間を考え、新たに提案する病名の横に旧病名をスラッシュで併記することになりました。どうぞよろしくごお願い申し上げます。

日本不安症学会（旧日本不安障害学会）
病名検討ワーキング・グループ代表

理事 清水栄司

日本不安症学会（旧日本不安障害学会）
理事長 久保木富房
理事会一同